

東北地方 1か月予報

(12月2日から1月1日までの天候見通し)

平成18年12月1日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

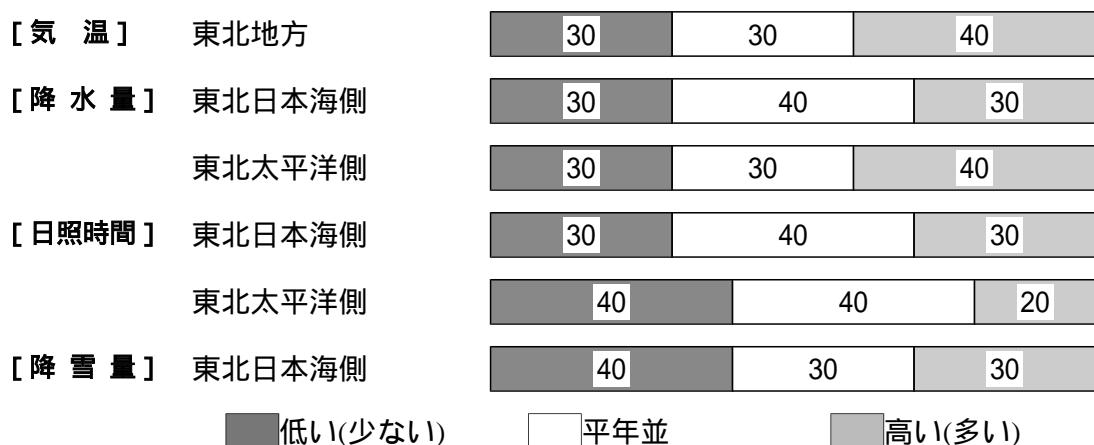
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

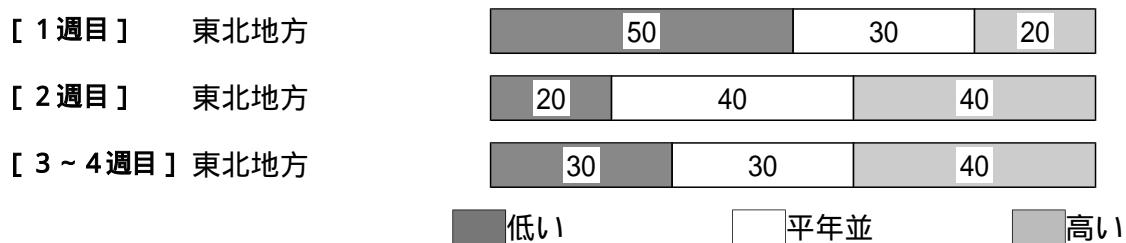
日照時間は、東北太平洋側で平年並または少ない確率がともに40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率が50%、2週目は平年並または高い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 12月 2日(土) ~ 1月 1日(月)
1週目 : 12月 2日(土) ~ 12月 8日(金)
2週目 : 12月 9日(土) ~ 12月 15日(金)
3~4週目 : 12月 16日(土) ~ 12月 29日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は12月8日
3か月予報: 12月25日(月) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	降雪量(cm)	気温()		
					1週目	2週目	3～4週目
青森	1.2	147.5	55.1	166	2.9	1.6	0.4
深浦	2.4	127.1	34.1	78	3.9	2.8	1.7
むつ	1.1	94.0	73.9	106	2.7	1.5	0.4
八戸	1.5	41.8	128.2	52	3.2	2.0	0.8
秋田	2.6	161.6	47.3	81	4.2	3.1	1.9
盛岡	0.7	64.3	105.0	73	2.3	1.1	0.0
大船渡	3.4	39.2	140.2	0	5.0	3.8	2.6
宮古	2.9	39.8	151.5	19	4.5	3.4	2.2
仙台	4.2	28.6	144.5	13	5.8	4.7	3.5
石巻	3.2	27.1	154.7	0	4.9	3.7	2.5
山形	2.3	80.7	84.3	98	3.9	2.7	1.5
新庄	1.2	210.6	37.4	175	2.9	1.7	0.5
酒田	4.2	201.5	43.2	68	5.7	4.7	3.5
福島	4.0	34.7	130.3	35	5.6	4.6	3.4
若松	1.8	84.5	72.1	108	3.3	2.3	1.1
白河	2.6	27.7	156.4	18	4.1	3.1	2.0
小名浜	6.0	39.1	184.0	0	7.4	6.4	5.3

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.6	80～104	96～103	68～107
東北日本海側	-0.4～+0.6	91～107	90～107	78～115
東北太平洋側	-0.3～+0.6	66～107	98～104	57～107

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.7～+0.7	-0.6～+0.6	-0.4～+0.6
東北日本海側	-0.7～+0.7	-0.6～+0.7	-0.5～+0.6
東北太平洋側	-0.6～+0.7	-0.6～+0.6	-0.4～+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年12月1日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(12月2日~1月1日):

冬型の気圧配置となる日が多いですが、長続きはしないでしょう。東北地方は時々低気圧の影響を受ける見込みです。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

なお、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

1週目(12月2日~12月8日):

冬型の気圧配置や気圧の谷の影響で、東北日本海側は雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れます、期間のはじめは気圧の谷の影響で雪または雨の日がある見込みです。

平均気温は低い確率が50%です。

2週目(12月9日~12月15日):

冬型の気圧配置は長続きせず、時々低気圧の影響を受けるでしょう。東北日本海側では平年に比べて曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。

3~4週目(12月16日~12月29日):

冬型の気圧配置となる日が多いですが、長続きはしないでしょう。東北地方は時々低気圧の影響を受ける見込みです。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

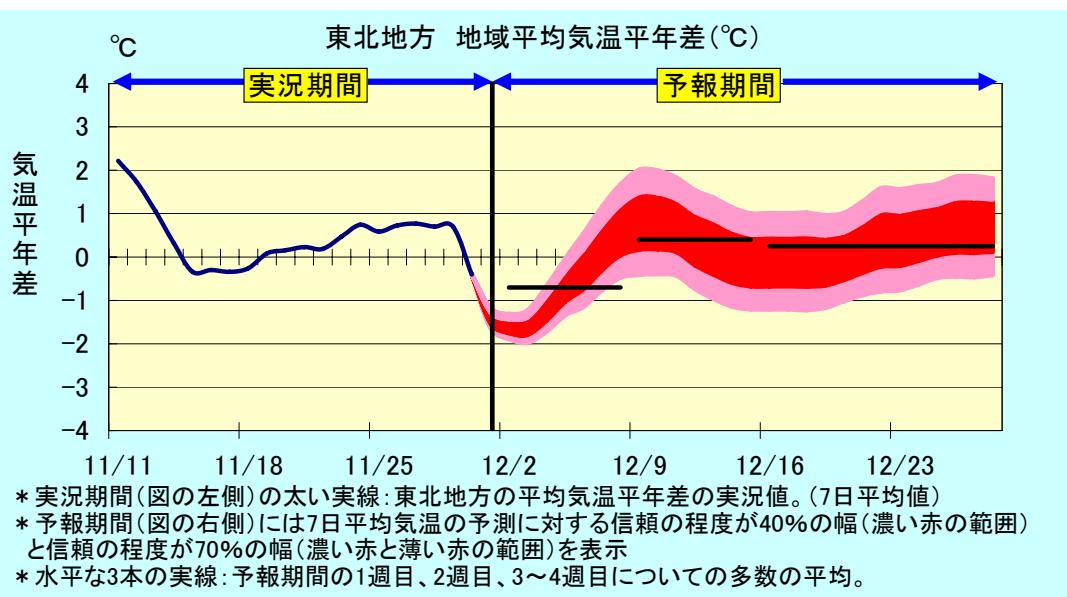
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	4.6日	1.2日	1.1日	2.3日
東北太平洋側	16.8日	4.2日	4.0日	8.6日

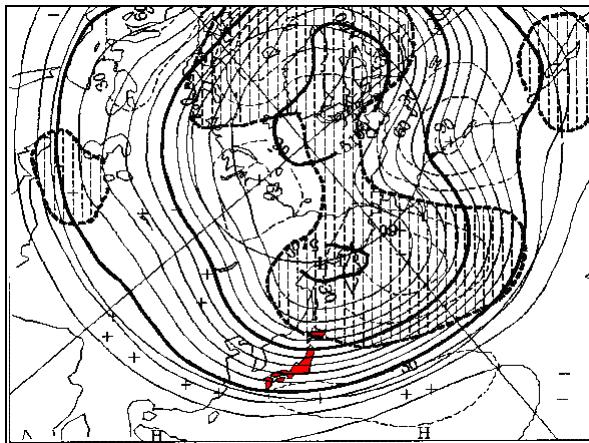
2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年を下回り、2週目、3~4週目は平年付近だがやや平年を上回る。なお、数値予報の信頼度は大きい。



3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均：北半球の大気の流れは、エルニーニョ現象発生時の冬の特徴を示す。すなわち日本の南東海上—ベーリング海付近—北米東岸—カリフォルニア付近と正偏差、負偏差、正偏差、負偏差と交互に並ぶPNAパターン。東北地方は正偏差だが、北海道までは負偏差域で寒気の影響を受ける時期もある見込み。また本州付近の等圧線は東西に走り、低気圧が本州南岸を数日の周期で通過することを示す。東北地方は、冬型の気圧配置となる日が多いが、長続きせず、時々低気圧の影響を受ける見込み。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べて晴れの日が少ない見込み。

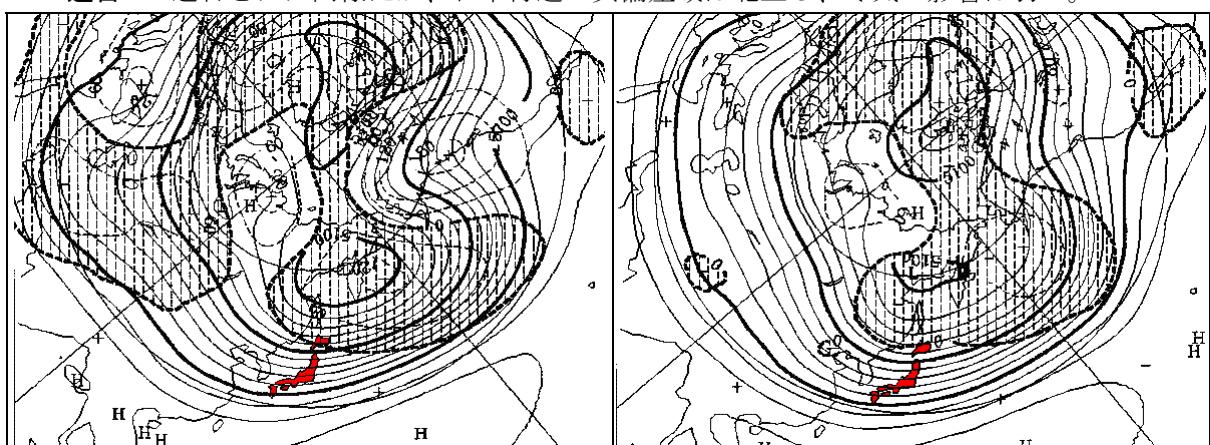


1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)

1週目：月平均とほぼ同様。大気下層の予想(図略)では、北日本付近負偏差で寒気が入りやすい。

2週目：1週目とほぼ同様だが、日本付近の負偏差域は北上し、寒気の影響は弱い。



1週目平均 500 hPa 予想天気図

2週目平均 500 hPa 予想天気図

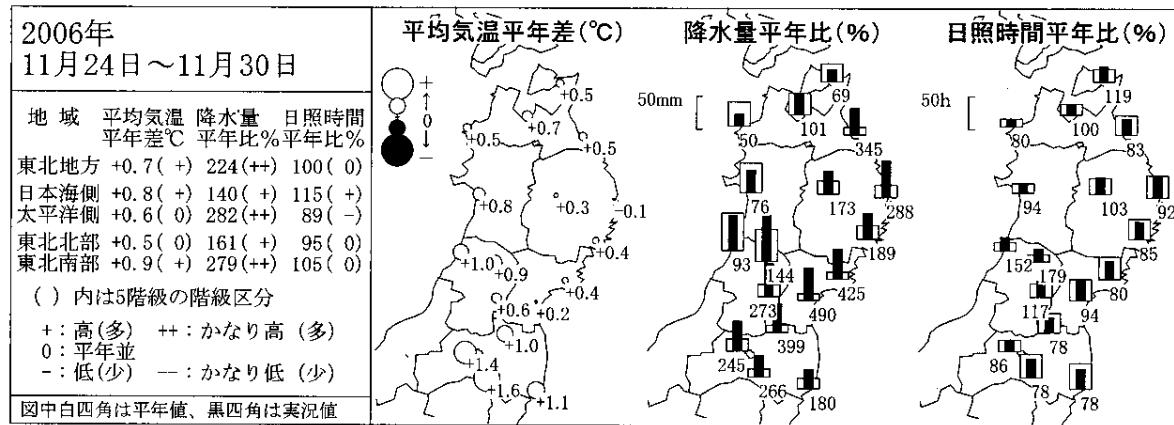
実線は、等高度線（間隔60m）、点線は、平年差（間隔60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (11月24日～11月30日) の天候の経過

この期間、はじめは高気圧におおわれ晴れたが、その後は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなった。27～28日は本州の南岸沿いを進む低気圧の影響でまとまった雨となつた。

平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

5. 寒候期 季節現象(初日)

2006/2007年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	11.19	10.23	10.27	11.20	10.29	11.16	11.12	11.7	11.8
八戸	11.2	10.27	11.16	11.19	11.2	11.16	11.12	11.11	11.15
秋田	11.19	11.6	11.21	11.19	11.13	11.21	11.16	11.12	11.15
盛岡	10.22	10.18	10.26	11.2	10.24	11.1	11.12	11.8	11.15
宮古	11.18	10.31	11.10	11.18	11.5	11.10	11.30	11.16	11.30
仙台	11.18	11.06	11.20	11.19	11.16	12.3		11.22	12.3
山形	11.9	10.24	11.1	11.19	10.29	11.1	12.1	11.16	11.19
酒田	11.19	11.12	12.6	11.19	11.20	12.6	12.1	11.17	11.30
福島	11.19	11.6	11.17	11.19	11.11	11.17		11.24	12.3
若松	11.19	10.28	11.1	11.19	11.6	11.1	11.12	11.17	11.16
小名浜	11.25	11.11	11.18	11.25	11.19	11.21		12.13	12.15

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
八甲田山	1584	11.8	10.16	11.8	雁戸山	1485	11.8	10.28	11.10
岩木山	1625	11.8	10.15	11.9	滝山	1362	11.8	10.30	11.10
階上岳	740	11.30	11.12	11.19	泉ヶ岳	1175	11.8	11.6	11.9
太平山	1170	11.12	10.31	11.9	蔵王山	1841	11.8	10.23	10.24
岩手山	2038	10.9	10.13	10.24	吾妻山	1949	11.8	10.21	10.23
鳥海山	2236	10.9	10.9	10.25	飯豊山	2105	11.8	10.17	10.24
月山	1984	11.8	10.15	10.26	磐梯山	1819	11.8	10.24	11.9
朝日岳	1870	11.8	10.19	11.10					

注：蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

* 大船渡測候所が平成18年10月1日に特別地域気象観測所へ移行をしたことに伴い、
大船渡における寒候期季節現象および五葉山の初冠雪の観測は終了しました。